

令和 6 年度第 2 回愛知県特別支援教育連携協議会での協議内容等

開催日 令和 7 年 1 月 2 4 日

開催場所 自治センター

愛知県の特別支援教育の推進のために、関係機関が連携し、特別な支援の必要な子供に対して生涯にわたって一貫した支援を行うための取組について

- (1) 仕事に就いた後、うまくいかなくなったり離職したりする原因の一つに人との軋轢がある。学校生活の中で、人が嫌いにならない環境を整えていくことが自立につながっていくのではないか。
- (2) 愛知県内に障害者雇用に取り組む会社が多く立ち上がっている。こうした会社を取り上げられた映画もあり、視聴することで学校と事業所をつなげたり、理解啓発を進めたりできる。また、会社について知って終わりではなく、実際に店に出かけるという行動を起こすことも必要である。
- (3) 中学校卒業後、特別支援学校へ進学するケースが多数ある。子供の実態に応じた学びの場を選択していくためには、特別支援学校高等部でどのような学習を行っているか、将来的にはどのような進路選択をする子供が多いかといった情報を早く知ることが重要である。
- (4) 子供たちが社会に出たとき、社会に必要とされていると思えることが重要である。そのために、学校生活の中で、役割をもち、誰かのためになる経験を積んでおくことが大切である。また、作業学習等の中では、余暇の過ごし方や報酬に関わる楽しみを体感する経験を積んでおくことが就労の一つのサポートになる。
- (5) 同世代の同じ地域に住む子供たちの中から、必要な支援が大きかった子供が消えてしまわない社会が大切である。地域社会が障害のある子供の存在を知り、名前を知っているという状況があるだけでも、本人、家族の支えになる。
- (6) 学校現場において、教員が障害のある方と共に働くという感覚、経験を積む必要がある。それがなければ、子供たちに小中学校で障害のある友達と共に生活したのち、将来社会で共に働いていくということについて教えられないのではないか。